

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700059		
法人名	空知パブリックメンテナンス株式会社		
事業所名	グループホームほほえみ 1F		
所在地	岩見沢市8条西16丁目2番地1		
自己評価作成日	平成23年2月3日	評価結果市町村受理日	平成23年3月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅街にあり、近くには大型スーパーがあり、地域の一員として交流を深めつつある。  
事業所として特に力を入れているところは、利用者は長い人生経験の中で培われた知識や技の「力」を最大限に生かし、本人の思いを尊重して、その人らしい生活をマネジメントするよう心がけ支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0195700059&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0195700059&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年2月23日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、認知症高齢者の安心した暮らしの提供を目指した運営法人の3番目のグループホームとして市の中心部に平成22年4月開設した。既設事業所の経験を活かし、建物内はバリアフリー仕様で防災設備機器の充実を図り、家族の宿泊にも利用可能な和室や更衣室兼会議室なども確保している。広くゆったりとした共用スペースは、生活感、季節感の漂う温もりのある空間となっており、くつろぎの居場所づくりを進めている。利用者を尊重しゆとりと笑顔のある暮らしという事業所の方針を掲げ、馴染みの職員との関わりを保ち、対話を通して一人ひとりが楽しみや張り合いを持って過ごせるよう配慮している。開設当初から運営推進会議を開催し、地域の人達の協力を得ながら地域に開かれたグループホームとして利用者の地域生活の支援に取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は見えやすいところに掲示しており、職員は思いを一つにし支援するよう心がけている。	理念は、法人の既設グループホームの理念を基盤に、開設時に職員間で協議し策定した。居間の見やすい場所に掲示し、理念を意識したケアサービスの提供に努めている。	理念は、事業所が目指すサービスの拠り所として常に立ち戻る原点であるので、全職員で地域密着型サービスの意義を確認しつつ事業所理念を掘り下げて理解の共有を図り、日々のケアサービスにつなげる取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会長が協力的であり、地域の一員として行事に参加できるよう配慮して頂いているところである。	近隣の人とは挨拶や会話を心がけ、自然な関わりが持てるよう努めている。運営推進会議を通して町内行事の誘いや祭りの神輿が玄関先に来るなど、地域との関係づくりを進めている。楽器演奏や子供太鼓の来訪もあり、ボランティアとの交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー養成校の実習生の受け入れを実施しているところで、まだ地域の人々まで至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活支援の状況を報告や現在の取り組んでいる状況など報告し、意見要望を受け地域の理解と支援を得るよう働きかけている。	平成22年5月に初会合を持ち、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。会議には市の担当職員のほか、町内会長、町内会婦人部、民生委員など地域から3名の参加があり、利用者状況や事業所の取り組み状況を報告し、地域事情や町内会行事などの情報や意見を交換している。	利用者、家族が会議に参加するまでに至っていないので、議事録を整備し、会議の目的や内容を伝えながら家族等に広く参加を呼びかけて、共に利用者を支え事業所の質向上に役立てる取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂いており、互いの情報を交換し、サービス向上に努めている。	市の担当者には、運営推進会議や行事見学を通して事業所の状況を理解してもらっている。業務上の不明な点は率直に相談し、具体的な助言や指導を得られる状況にあり、連携してサービスの質確保に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習会や勉強会をすることで、全職員の拘束を行わない介護上の工夫を相談しながら行っている。職員の見守りを徹底し施錠しない自由な暮らしを実現している。	身体拘束廃止マニュアルを全職員に配布し、ミーティング時に身体拘束について話し合っている。夜間は玄関、ユニットの入り口を施錠し、日中はセンサーや目視での見守りに努め、拘束や行動制限をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について勉強会で学ぶことが出来、日頃不適切な行動がないか話し合っ全職員が周知徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学んでいる。現在は対象者はいない。今後必要に応じて対応したいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は口頭及び文書で説明し、疑問点があれば理解・納得するまで説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見要望を気兼ねなくできるようにしており、家族との良好な関係作りにも努力している。	家族の来訪時等には、記録日誌を開示し、近況報告を兼ねて報告している。また、毎月個別に写真を添えた手紙を送付している。重要事項説明書に第三者の苦情相談窓口を明記し、処理対応の流れを定めている。	家族が聞きたいと思われる情報提供の工夫や、意見箱の設置場所の変更、介護計画に関する説明や要望等の聴取に取り組みながら、さらに家族と対話を深め意見などの表出を促し、運営への反映に取り組むことを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員の意見や提案を設ける機会を作り、ケアに反映させている。	管理者は会議などで職員の意見や提案を受止め、法人責任者に報告し運営の反映につなげている。更衣室の確保やシフト、有給の希望を調整し、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。職員の交替は少なく、馴染みの関係でのサービス提供を重視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法によって労働条件を整えている。また管理者や職員の声に耳を傾け働く意欲を持ち、気分転換が図られるよう休憩時間を設けている。資格取得を支援し、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の色々な研修に出来る限り参加出来るよう配慮している。研修内容も報告をし全職員が学べるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入しており、研修会、懇親会等に参加し情報を交換して日々のサービスの向上に励んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人、家族にお話を聞き、本人の希望、困っていること、不安に思っていることを聞いて、安心して生活できるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族と本人の状況、家族等が困っていること、不安を聞き、どのような支援を望むかを把握し、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望の方には本人、家族と見学に来ていただき、本人の状況を聞き、今何が困って今何を希望しているか聞き、出来る限りサービスに取り入れる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の訴えを共感し、一緒に生活することにより共に分かち合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子をお便りや来訪時に伝え、情報の共有を図るよう努力している。家族と職員が共に利用者を支える協力関係を築きつつある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が訪問され、楽しそうに会話しており、馴染みの美容室に出かけたりもしている。これまでの馴染みの関係が途切れないように支援していく。	利用者は家族と一緒に行きつけの美容室や自宅、親族に会いに出かけている。事業所には利用者を訪ねてくる元の職場関係者やスポーツの仲間達もおり、これまでの関係が継続できる機会をサポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時はスタッフも入り会話を持つようにしており、レクレーションの時も全員利用者が参加できるものを選び、孤立しないように職員が調整役となって利用者同志の関係がうまくいくように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移る時は、今までの生活が維持できるよう、生活環境、支援の内容、注意点について情報提供しているが退所後は状況により相談や支援に努めたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者主体で考え、日々の係わりの中で把握に努めている。意思の疎通の困難な人には家族から情報を得るようにしている。	一部センター方式の活用も含め、本人や家族からの情報を蓄積し共有していく方向で取り組んでいる。日常の生活の中で意識的に利用者の思いや意向を聞くように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの生活歴や今までの暮らしの情報を伝えてもらい、支援に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを把握し、その日の体調や心理状態を見極め、今日やれることをやってもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人が困っていることを聞き、ケース会議で一人一人のケアについて話し合いをし、それを反映した介護計画を立てている。	ケース会議で利用者の状況や職員の気づきを持ち寄り、検討している。介護支援専門員が中心となり、日々の記録を基に利用者、家族の意向を参考にし、介護計画を作成し、3ヶ月毎に評価、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに食事・水分量・排泄・バイタルチェック、利用者1日の状況や気付いたこと等を記録しケアや介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて病院受診、送迎など必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活できるように、民生委員、町内警察等に協力を呼び掛けている。ボランティアが来た時も一緒に余興を楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医はそれぞれ持っており、基本的には家族が同行して受診している。家族が行けない時は職員が対応している。	利用者それぞれに利用開始前からのかかりつけ医があり、原則家族が通院の付き添いを行っているが、家族の事情により同行が難しい場合は職員が送迎、受診を支援している。	協力医療機関が事業所から遠い市の郊外に位置しているため、緊急の際や休日、夜間なども含め必要時に迅速な相談や適切な医療が受けられるよう、できるだけ近くの医療機関に協力を要請し、さらなる体制確保の取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、訪問看護師もいないが、バイタルの状況や体調の変化があれば、見逃さずかかりつけ医や指定病院に受診している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞うことにしている。又、家族共有情報交換しながら回復状況等早期退院に向け病院関係者や家族と相談しながら対応している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した時事業所ができる最大の支援について、十分に説明し、本人家族に了解してもらっている。	事業所として、利用者が重度化した場合であっても常時医療機関で治療が必要な状況以外は支援をする方針であり、利用開始時に重度化した場合の対応可能な支援について、家族に説明し納得を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケースバイケースで管理者に連絡して判断を仰いだり、救急車を呼ぶなど全職員が対応できるように周知徹底している。消防署の救急救命等の講習を受け全職員が対応できるようにする。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導で年2回避難訓練を行っている。又、避難経路の確保、消火器の使い方など全職員で周知している。町内会にも協力をお願いしている。	年2回事業所独自と消防署の指導のもとで日勤帯、夜勤帯を想定し、利用者参加で避難誘導、緊急通報、消火器操作などの訓練を実施している。運営推進会議で消防署職員を招いて防災について協議しながら、地域の理解と協力を要請している。	火災以外の災害も想定し、様々な場面での対応策を検討して、全職員が慌てずに対応できるよう実践的訓練を重ねることを期待したい。地域との具体的な支援体制を整備して住民参加の訓練実施の取り組み、備蓄品の確保なども期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、大声でのトイレ誘導、否定した態度、利用者の誇り、プライバシーを損ねないよう職員間で日常的に確認している。	ミーティングなどで利用者を人生の先輩であるという認識を共有し、接し方について言葉遣いや声のトーン、スピーチロック(言葉による拘束、行動制限、制止)などを職員間で確認し、プライバシーや誇りを損ねない対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人のペースに合わせて、思いや希望が少しでも叶うよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応一日の流れは決まっているが、利用者の体調や希望に添って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は基本的にはご本人の意向で決めているが、中にはお化粧したり髪を染めたりおしゃれを楽しんでもらうよう取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛付、後片付けなど利用者さんが出来ることは一緒にやっている。また、嫌いなものも目先を変えたり、どうしても食べられないものは他の物に変えたりしている。	夕食づくりを楽しむ利用者もおり、食事づくりは利用者の経験や力を活かし皆で一緒に行っている。献立には利用者の希望を反映し、食事に配慮が必要な利用者には量や形態を調整して提供している。外食や行事食なども取り入れ食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を記録し、一日の量が確保されているか記録し確認している。食事が取れない時は食べやすいもの、好物等を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをしており、出来ない方は一部介助をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの分かる人、トイレの訴えの無い人は声かけてトイレ誘導している。	トイレで排泄を大切に声かけし、見当識(自己の時間的、空間的、社会的位置を正しく認識する機能)の不安やふらつき心配に配慮した誘導を行い、排泄の自立を助け支援している。衛生用品は個別の状況に応じて選定し使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックしており、水分、食事、乳製品の摂取に努めている。また、体操も行っており、便秘の改善に心がけている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則週2回の入浴を行っており、本人の体調と希望に添って入浴してもらっている。	バイタルチェックを行い、週2回を目安にした入浴を行っているが、入浴を渋る利用者には言葉かけやタイミングを図りながら入浴を促している。職員が介助に入り、コミュニケーションを取りながら清潔保持と楽しめる入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、生活のリズムを整えるよう支援し、休息は居室、居間のソファなど自分の好きなところで休まれている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人一人の薬の内容を把握するよう投薬の説明書をファイルに綴っている。服薬の際も手渡しで服薬を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来るお手伝いをして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。また気分転換に外食、ドライブなどをして楽しんでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添って散歩、外食、ドライブ、買い物同行等、外出支援を行っている。又、季節おりの花見や、紅葉などに出かけた。	ベンチで日光浴をしたり、散歩やスーパーに買い物に出かけたり、戸外に出る機会づくりに取り組んでいる。行事担当者が季節に応じた外出を企画し、皆と一緒に車椅子の利用者も安全で不自由なく事業所車両で花見や果物狩り、施設見学などに出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者は、買い物時支払いが出来るよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけられるように設置されており、電話の時は職員が取り次ぎ、自由に話されている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節ごとの飾り付けをして軟らかく暖、雰囲気を作り出している。トイレはわかりやすく明示し、冬は寒くないよう温度調節している。	建物内は全体として広い居住空間である。居間にはゆったりとした食卓スペースを確保しており、ソファの前面には足置きベンチを設置し、利用者がくつろいで過ごせるように工夫している。室温調整は利用者の体感に配慮しながら行っている。利用者、職員で作上げた作品や季節を取り入れた装飾を施し、落ち着いた生活環境になっている。また、和室は家族の宿泊室として利用できる多目的室になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがあり気のあった利用者同士会話を楽しんだり、カラオケやDVDを楽しんだりしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使用していたものや写真、使い慣れた物を持ちこんで、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	居室には事業所の介護用ベットを設置し、衣類や雑貨などはクローゼットに収納でき、すっきりとした居室になっている。単筒や小物類を持ち込み、自室としての心地よさの支援に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー等になり、廊下、居間、トイレなどには手すりが付いている。物の配置に危険はないかどうか安全な環境整備に努めている。			